

IODP 日本コンソーシアム（仮称）設立趣意書

我国も参加して現在行われている ODP (Ocean Drilling Program)は、海洋底掘削の成果にもとづいて、新たな地球観を創出する上で多大の貢献をしてきています。この国際共同研究計画は、2003 年 10 月より IODP (Integrated Ocean Drilling Program)として新たなステージに入ります。IODP ではこれまでの深海掘削の成果を引き継ぎつつ、これまで到達ができなかった未知領域への掘削を計画しており、地球システムの進化を理解し、さらにはその将来を予測する上で必要不可欠な成果が得られると期待されています。

IODP では、我国が建造しているライザー掘削船「ちきゅう」、米国が用意するノンライザー掘削船、及びヨーロッパ諸国が準備する特定任務船、の 3 船による運行体制が予定されています。従って、本計画の科学遂行にあたっては、これまで以上の日本の貢献が必要であり、そのためには深海掘削に関する国内研究体制の整備が急務であります。

現在、運営組織・科学計画の策定について国際的に準備が進められているところですが、それにあたっては、掘削船の運用に係わる機能と、それとは独立して科学計画の策定を行う機能が必要不可欠であることは、国際的にも広く理解されています。

我が国が中核となる IODP では、この科学計画の策定機能を強化する必要があります。この為に IODP 計画の趣旨に賛同する国内の研究機関が集まり、本計画がもたらす生命・地球科学への波及効果を最大限に活用する基盤としての研究機関ネットワークを、速やかに設置することが必要であると考えます。対外的には国内研究機関の連合体としての「IODP 日本コンソーシアム（仮称）」は、IODP 科学計画を担う日本の研究機関連合として位置づけされ、OD21 計画の運営主体である海洋科学技術センターとともに IODP 計画を牽引することになります。

以上のような構想を実現するため、「IODP 日本コンソーシアム（仮称）」の設立をここに提案するものであります。

平成 14 年 8 月 8 日

「IODP 日本コンソーシアム（仮称）」設立発起人

久城育夫 (IFREE システム長)

小泉 格 (北海道大学名誉教授)

平澤朋郎 (東北大学名誉教授)

平野哲也 (東大名誉教授)